

を原則として居る、但し教師とか其他支那政府が備つたものだけは宜しいと云ふから、今現にアナタ方の同窓の先輩が武昌に往つて居るのは、張之洞が特許して住はして居るのである、假りに私が住はうと云つても住はせない、日本の雜貨店が一軒も開くこと出来ない、現に今日武昌だけでも張之洞の祿を食む者、男女老若大約二百人計り居る、其二百人が筭の鐘詰を一つ買ひ、福神漬を少々買ふにも漢口まで來なければならぬ、何ぜなれば、雜貨店を許さない、商人は條約に依つて開港場でない所に居ることは出来ない、仕方がないから武昌から日用品を買ひに來る、若くは此方から行商的に御用伺ひに廻ると云ふことが必要である、要するに開港場は漢口であつて、武昌、漢陽は張之洞に備はれて居る者の外は住居を許さない、所が此川が例の隅田川を大川と思はれて居る、諸君の想像の付かぬ所は是なので、非常に不便なもので、武昌に往くのは、一丁度私に言はせると、武昌に往つて來るのは、東京から静岡に往く位の面倒臭さである、向ひに見えて居るが、門司馬關の關係のやうなものでない、此處の川が曲つて北に向いて流れて居る、冬北風が吹くと所謂濁浪激して天を打

つ。の概がある、其結果はチョツとした渡船では渡れない、極く天氣の好いときに用を足しに往くのに、吾々は支那町の界まで駕籠を先きにやつて自分は人力なり馬車なりに乗つて其駕籠で支那町を通つて、渡船に乗つてそれから武昌の所に着いてそれから又そこで漢口から用意して來た其駕籠に乗つて目的地に往つて又同じことをして歸るから朝出て午後四時頃でなければ歸れない、況んや濁浪天を衝く時に於てをや、現に交通不便なことが想像の出來る一の話は、昨年、の天長節に、例年の通り張之洞始大官及在武昌日本人の重なる人を招待した所が其時は天氣が悪くして日本人連中は來なかつたが、張之洞はア、云ふ人だから、どうしても日本の皇帝の御誕生日に、日本の領事館に誰れか遣らなければ氣が濟まない、しかしどうしても船が出ないから、到頭自分の孫を軍艦に乗せて漢口に寄越し、祝賀餐宴に列せしめた、言問團子の所から竹屋の渡しの所を千噸以上の軍艦で横斷つたと云へば、珍聞のやうであるが事實楊子江は、時として軍艦でもなければ渡れないこともある。餘談に涉るが張之洞は決して漢口に來ない人である、如何様なことがあつて

も来ない、それはどう云ふ譯かと云ふと、任地でない、漢口は開港場である、けれども漢陽と武昌とは開港場でないから商人は一人も置かぬと云ふのと同じ理窟で、任地でない、自分は武昌の總督府に居るべきものであるから、勅命がなければ決して渡江漢口に往かぬと云ふ、それだから日本から伊藤侯とか西園寺侯とか何とか云ふやうな人や又は此處から高田博士が來られてもさうだ、詰りどんな人が此方から訪問しても、張總督は漢口迄答禮に來はしない、往くと歸るときに、チヨット何處々々に御立寄りをお願いと云ふ、例へば總督衙門で張之洞に會ふとすれば、布政使衙門かなんかへ立寄つて居ると、直ぐに其後て來て御答禮に伺ひましたと斯う云ふ譯である、是非訪問の答禮をしなければならぬが、それが爲めに漢口に渡る譯に往かぬから自分の別宅で待つて呉れ、其處で答禮すると云ふことになつて居る。

話もとに戻つて商船會社の事業は先づ今申す通りて又た近頃承る所によれば、郵船會社が更に今三艘、楊子江に於ては外に比類のないと云ふ三千噸ばかりの立派な船を拵へつゝあり、此三艘が出來上つて來て、商船會社の六艘と現

に郵船會社がやつて居る二艘と合せて十艘を以て、長江の航業に従事するならば、先づ英獨支那と云ふ重なる競争者に對して負けるやうなことは萬々あるまいと思つて居る、それで噸數に於ても船の數に於ても亦設備に於ても郵船會社の三艘が出來ると、長江に於ては先づ日本が殆んど第一流に達するところが出來るだらうと思ふ、人或は日英同盟と云ふことを商業上にも云々して、楊子江に於ては英吉利の利害と衝突することを避け、若し能ふべくんば、獨逸とも衝突を避けるやうにしたいと云ふ考を持つて居るものがあるやうに承知するけれど、我輩も他國と衝突は好まぬ、しかし元と々々日英同盟は政治主義の上の同盟で、事實商賣上のかげ引に迄日英同盟だからと云つて、特に御負け申して遠慮をして居る譯に往かないし、又た特に讓る譯にも往かぬので、是は此方から、プロボケーションをやしかけるのでないが、英吉利の從來楊子江岸に於て日本の利益に對しての遣り方を見ると、吾々が唯、日英同盟と云ふ言葉の下に、常に讓歩の態度に出で居ることは、許さぬ事情がある、例へば英吉利の居留地の前面に蘆船を持つて居つた所の、マクベーン線を、郵船會社が買收

した事がある、現在の二艘はそれだ、其艦船は英吉利の居留地河岸にピタと横付けになつて居つた郵船會社は買收後其艦船を利用して航河業を營まうとする、と英吉利の方では曰く、英國船でなければ英吉利居留地の前に船繋をすることを許さぬ、既に買收して日本の會社のものとなつた以上は、此處に繋ぐことはならぬと言ひ出した、仕方がないから郵船會社は其船や設備を、楊子江航業會社と云ふ英吉利の會社を作て之に賣渡した英吉利の旗を掲げて今度は宜かろうと思つて英吉利の居留地に船を繋げ様とする、といけない、楊子江航業會社は其の實際は郵船會社の小化身であるから假令英國旗は掲げても善意且つ實質的に英吉利の利益を代表するものでなければ、水面使用を許さない、と云ふのでどうしても英吉利の居留地の前に船を付けることを許さぬ、と云ふので、郵船會社、イヤ楊子江航業會社は甚しい不便と損害を忍んで、佛國居留地前面に船を繋げて居る、此問題が最もやかましい擦つた揉んだをやつて居たときはどうかと云ふと、時しも日英同盟が締結されて後一箇月か二箇月、日本では御祭騒ぎのあつた時である、其同盟と云ふものに於ては、吾々は無

論賛成し非常に喜んで居るけれども、今申す如く、實利上及び商業上に於ては、先方が寸歩も假借せぬのであるから、或場合には競争も已むを得ぬ、列國の競争と云ふのは全く算盤珠の上の競争であるから主義として政治上で親しい國敵として仲の惡るゝ國とても、算盤珠に合ふ合はぬで、相反目したり、又手を握ることが出来て来る、親友間でも商賣は別だ、我々が此心苦しい態度に出なければならぬのも、此方が求めるのでない、先進國がさう云ふ態度に出るか、吾々立遅れたものは、已むを得ず、自衛上斯くの如き決心をしなければならぬのである、故に今度吾々先刻御話した所の、現に乞食小屋の巢窟たる日本の居留地に、他日護岸を築造し、垣々たる大道が縦横に通じ、巍峨たる大厦高樓が出来るやうになつた其時に、外國人が艦船置き方を請求することがあつたならば、吾々は善意且つ實質的に、日本の利益を代表するものでなければ、許さない、と云ふことを申す積りである、それは斷じて諸君の前で申して置く、唯政治上の意味は寸毫もない純然たる商業上の自由競争に過ぎない、是れ實に已むを得ぬのである。(拍手)

左の數篇は本書の各節と重複する處なきにあらざれども、有益なる参考となるべき資料なりしを以て特に通商彙纂より採録せり。

## (五) 起業資料

### 第一款 工業地としての漢口(其一)

漢口は土貨の轉運發貨大集散地として好適なると共に又た好個の工業地として目することは失當ならざるべし。

土貨の種類、年産額等、工業地としての要件。

各種製造工場一覽表

將來設立すべき工場の種類並原料の供給と製品の需用。

(甲)製油業。(乙)製粉業。(丙)タオル製造業。(丁)燐寸製造業。(戊)製膠業。

(己)硝子製造業。

燃料としての石炭。

各種職工人足賃銀表

(三十六年九月二十二日附在漢口帝國領事館報告)

貨物の集散地として又交通機關の中心としての漢口は其の地理上の情勢米國シカゴに類似するものあるより外人呼ぶに東洋のシカゴを以てするは蓋し偶然にあらざるなり、去れど是れ唯だ地理上の情勢が相類似せりとの漠然たる意味に過ぎずして工業地として漢口が果して亦たシカゴの如き工業設備を許すや否や換言すれば轉運發貨の中心點たる漢口は商業地としてよりも寧ろ工業地として遙に價值あるものに非る歟、請ふ左に其要件を説明せん。

### 第一 原料

一、各種土産貨物の集散地なること

土産貨物は牛莊にも集るべし廣東にも亦た上海にも集るべし、去れど如上の集散地は直接土貨の原地出廻品を収集するには非ずして已に商人の手に渡りて射利の目的を以て轉送さるべく収集されたる所謂商品の發轉地なれど漢口は之と異りて各種の素品が多く生産者の手に由りて一處に集合する最初の大陳列場なれば其の送來品が商人の手に移らざる間は猶ほ一個の産物

附 録

にして商品には非ず、商品に非ざる土貨の價格は純粹の生産原價に僅の利益を見積りたるものにして商人の手數料諸掛り及び射利の計算を包含せるものに非ず、即ち當地は坐して生産原價に等しき土貨を多量に購求し得べき最好地位に在るものなり。

今左に土貨の重なる種類年産額等の一覽表を掲げん。

品名	單位	輸出額	年産見當	産地	相場	摘要
獸脂	擔	五,000	五,000	湖南、湖北、河南、等	十一兩	製蠟製鹼原料
皮油	同	一五,000	二五,000	四川、湖南、陝西、湖北	十二兩	製蠟製鹼原料
漆油	同	一〇〇,000	二〇〇,000	陝西、四川	十三兩半	製蠟製鹼原料
胡麻	同	四五,000	五〇,000	湖南、湖北	四兩	製油原料
菜種子	同	三〇,000	未詳	湖北、湖南、河南	二兩三匁	製油原料
黃豆	同	八三,四九七	一五〇,〇〇〇	湖南、湖北	二兩四五匁	製油原料
小麥	同	一五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	湖北	二兩一匁	製粉原料
粟	同	八五,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	湖南、湖北	二兩四匁	「ヤエナリ」ニテ豆素麵原料

附 録

落花	花生擔	二五,〇〇〇	五〇,〇〇〇	湖北、江西		製鹼製油原料
棉實	子同	八三,九三四	一〇〇,〇〇〇	湖北	壹弗	製油、燃料、飼料
胡桃	同	一五,〇〇〇	三〇,〇〇〇	河南、山東	殼付三兩五匁	製油原料
茶	同	四〇,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇	湖南、湖北、江西、安徽	相場	
棉花	同	二〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	湖北及湖南一部	十七兩	大糸向き
大麻	苧同	二〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	四川、山西、湖南、湖北、	四兩、十二兩半	製麻布、製網原料
猪毛	同	三三,五〇〇	一五,〇〇〇	陝西、河南、四川	百二十兩	「フランシ」原料及肥料
卵	子個	一八,七二五〇〇	二〇,〇〇〇,〇〇〇	湖北、湖南	千個に付鷄卵六弗	
鳥毛	鴨毛擔	五,六六六	七,〇〇〇	湖北、湖南	鴨卵八弗	織物原料
石	膏擔	三三,七二〇〇	未詳	湖北	鷄五兩	陶器、塗料、塑像原料
牛皮	皮同	一六,七〇〇	二〇〇,〇〇〇	湖北、湖南、河南、山西	黃三十二兩 水二十四兩	革帶靴原料
鉛	礦同	三九	二,〇〇〇	漢口	三兩乃至五兩	牛皮膠原料
安質母	尼礦同	四〇,〇〇〇	未詳	湖南、貴州、雲南		
安質母	同	五五,五〇〇	未詳	湖南、湖北		

附 録

生山羊皮枚	1,034,800	陝西、四川、山西等	六十兩	柔皮原料
綿羊皮同	200,000	湖南、陝西、山西		毛皮原料
各種毛皮同	146,000	兩湖、四川、陝西		毛皮原料
白 蠟擔	2,250	四川、貴州、湖南	六十兩	製蠟藥材
黃 蠟同	1,300	未詳	四十五六兩	製蠟製藥原
錫 礦同	2,260	湖南、雲南		料
桐 油同	28,653	湖南	八兩以上	塗料にて香油と稱する桐油は九兩内外とす

右の内皮油、漆油、獸脂及び白蠟は共に製蠟製石鹼の好原料として産額大なれば採つて製鹼業と製蠟業を興すに足り胡麻菜種子、豆類、落花生、胡桃類は以て油類搾取業を起すに足り小麥、菜豆、蓮根は用ひて製粉業の資料とすべし、棉花と苧麻とは更に紡績業に猪毛は、ブラッシン製造に資すべし、此等の製造業は凡て當地に開始し得べき性質のものゝみには非ずして或は一輸出先に於ける同種素品との比價上、素品の儘輸出するの製品と爲して輸出するに勝ることあるべし、或は當地に於ける目下の狀勢は猶ほ上記各種の製造業を營むに適

せざる事情あらん或は製品販路を發見し難きか爲に開始し能はざることあるべし、或は又日本への輸入税は製品に高くして原料品に廉なる事情等種々の障害ありて上記の製造業を此處に開始するの悉く必成事項なるを斷言すること難かるべし、去れと猶ほ其内日本人に好都合の事業にして未だ製造に着手されざる種類の一二に止まらざるあり、近來追々萬種の事情の製造業に適するものあるが爲めか油類搾取業、牛皮、膠製造業、製粉業等の工場を設立せんとする内外人の企畫を耳にすることあるは全く製造業を起すの有利なるを覺知するに至りし徵證とも見るべきもの歟、將來に於て如何なる事業か時機に適せるものなるやを究むるに先ち當地に於ける既設工場の數及び種類を左に記載すべし。

工場名	一日製造高	製品仕向先	職工の員數	國籍別
漢陽鐵政局	銑鐵百二十噸 軌條三百本	清國內地	職工人足共 二千三百名	清國
同 兵工廠	未詳	清國內地	三千四百五十名	清國
武昌織布局	生金巾三百匹内外	清國內地	千九百男工	清國

附 録

附 録

同 紡 紗 局	十六手十四手計三十 十俄内外	清 國 内 地	千四百男工	清 國
燧 昌 燐 寸 製 造 所	硫黄「マツチ」百六十箱	清 國 内 地	二千名内外	清 國
阜 昌 磚 茶 製 造 所	未	國	千三百男工	露 國
新 泰 磚 茶 製 造 所	未	國	一千男工	露 國
順 豐 磚 茶 製 造 所	未	國	一千男工	露 國
武 昌 生 糸 綫 場	二百〇八臺釜あり	内 地 及 外 國	八百女工	清 國
亨 達 利 安 質 母 尼 製 煉 所	休	外	未	詳
鋼 藥 廠 (火藥工場)	未	清 國 内 地	未	詳
漢 陽「タオル」製 造 所	六軒總計二千打	清 國 内 地	通計百名内外	清 國
製 膠 所	未	内 地	未	詳
美 最 時 蛋 廠	鴨蛋合計約六萬個	外	女工一千名	獨 清
禮 和 蛋 廠	五萬個	外	男工八百名	獨 英
元 亨 蛋 廠	三萬五千個	外	女工三百五十名	獨 佛
永 興 蛋 廠	同	外	男工二百五十名	獨 佛

附 録

瑞 興 蛋 廠	同	外	女工六百名	獨 國
和 順 蛋 廠	同	外	男工三十名	獨 國
東 福「アンチモニー」工 場	三萬五千個	外	女工四百五十名	獨 國
製 麻 局	一噸内外	上 海	男工二百三十名	獨 日
煉 瓦 製 造 所	漢陽に一ヶ所漢口に一ヶ所あり製造高等未詳	清	二十名	清 國

(ラミー原料、服地、京子、クロス、麻袋)  
(布、紋織、粗布等の製造、製造高未詳)

右は兎に角當市武昌漢陽の古風なる支那市街に不釣合なる烟突の数なれど當地の工業を代表すべき大装置の機械工場は鐵政局兵工廠武昌の四工場及び磚茶製造所と燐寸製造所との四五ヶ所に過ぎずして他は僅に製造工場的美名を借するに過ぎず、而して此等は内地需用の目的を以て製造するものと外國輸出の目的を以てする製造業との二種に分たれるれど其の如何を問はず皆な當地方面の土貨を採つて製造の資料と爲す點に於ては同一なり(燐寸を除く)然れとも前述せる土貨の種類を採つて此等工場の資料に比較すれば其の大部は猶ほ工業の資料に利用されざるもの多し例へば樹脂の如く獸脂の如く又油類原料の如く將た製粉業原料の如く硝子製造原料及製革製柔皮原

料の如し而して此等の原料たる皮油、漆油、胡麻、小麦、牛皮、羊皮等は目下大概素品の儘海外に輸送せらるゝのみにして未だ此等を原資に當地に製造業を起すものあらざるなり、起す能はざるが爲めか否な素品を其の儘本國に輸送するの利は猶ほ更に當地に製造業を起すの利に勝るものあればなり。

去れど製造業は轉運發貨の貿易業と異りて一地に於ける素品原料の潤澤なりとの一理由を以ては經始し難きものにして其の製品販路の需用先を發見したる上に非されは能はず故に當地に多産する樹脂、獸脂、油類原料、硝子原料、製粉原料を採つて製蠟、製鹼業等を始むるに當つては其製造品需用の販路を内地に求むるか將た本國に需むるかの方針を確定し果して販賣の方法確立するの後に非されは開始すること能はず、去れど目下諸國の趨勢は各々自國の工業發達を主眼とするが故に輸入の素品に對して課税するの寛にして製品に對して比較的酷なる傾向あるより當地に於ける外國商人は大概素品を輸出する所以なる乎、去れは當地に於ける製造業は正に如何なる種類を以て時宜に適するものと見るべき乎、思ふに當地の如き異域に在つて經營すべき

製造業は先づ其の販路を清國內地に求め得べき性質の者たらざるべからず即ち製鹼業も其の製品を長江流域の支那人に頒布する目的を以て設立せざるべからず製油業亦た然り製粉業亦然り於是前述せる多種の素品中如何なる種類か右の目的に相應する製造業の原料たるべきやを知るの要あり。

## 第二 有利の製造業

### 一、製油業

支那人が動物性植物性の油類を常食とすること恰も日本人の味噌に於ける如く、又外人の「バター」に於けるが如し、即ち其の需用の一般的にして多量なるが爲め各地到る處に固有の製油場ありて舊式に油類を製造す、當市に集る多額の油類は蔡甸、沔陽、黃州、邊より來るものにして其の取引の大なるが爲めに當市に於ける八大商業の一に算へらる、去れと其の油搾取の方法は實に迂遠にして一機臺一日八十斤乃至百斤内外を搾るに過ぎず、且つ油分と油糟との割合は洋式機械の如くならず即ち壓力少き爲め抽出する油分少くして機械を以てする場合の如く多産ならず故に若し機械を用ひて、短時間に多量なる純



良油を製することを得は確に從來の油類より更に廉價に支給することを得るや疑なけん。

一、製粉業

當地方湖北湖南の住民は固より米を以て常食とすれと又日本と同様に麵を食ふこと普通にて下層民の如きは麵製包子(饅頭の如きもの)饅頭、パン、カリントの如きものを常食とす、其の他萬種の菓子は、大抵麵粉を使用せざる物なきを見れば其の麵粉の需用の廣大なるを知るべし、殊に四川、山西、雲南の内地に向へば米を以て常食と爲す代に大抵小麥粉及び大麥を使用すと聞けり、去れば支那人は日本人の如く小豆を餡に製して使用すること少き代りに麵粉を採つて一般米飯に代用するは又日本に過ぎたるが如し、此の莫大なる需用に對する供給地は即ち重に湖北河南の平野にして年々小麥(大麥は少し)の産額甚大なり、今兩省土民の需用に充當したる餘剰の當市に集來し更に上海、蕪湖、蘇州には機械装置の製麵粉所あり等に輸出さるゝ額を示せば左の如し。

最近五年間小麥の輸出表

年 度	單 位	數 量	價 額
三 十 一 年	擔	六七、〇三六	一一四、一五三
三 十 二 年	同	三三一、九四〇	四二一、七四一
三 十 三 年	同	二七一、一八〇	四三三、八八八
三 十 四 年	同	三、八五九	五、七八九
三 十 五 年	同	二一九、七三八	三九五、五二八
平 均	同	一七六、七五〇	

年に豊凶の差あれど平均十七萬六千餘擔の輸出税關のみなれば盞金局の分を合すれば更に大なりあるより見れば其の産額又豆類胡麻に次ての多額なるを知るべし、此等の小麥を麵粉に製するには未だ大機械の装置に據る製造所の設けあるなし、(目下二三の製造所あり)農家は各々舊來の石臼を用ひて自家用的に少許を製造するに過ぎざれば彼等の手に成る製粉が他地方の需用を充たすが爲めに輸出されたることなし、却つて近年外國麵粉の輸入を見るに至りしは外國品

の眞價を知るに至りし結果なるべきも其の價格の不廉なるより料理屋上等菓子屋を除くの外は好んで需用せざるが如し。

今左に内國製小麥粉と外國品との價格を比較すべし。

	單位	卸賣	小賣
一、内地機械製	五十封	二元五十仙	二元七十仙
一、内地手製	一擔	四元五十仙 <small>(下等品四)</small>	四元六十仙
一、外國製	五十封	三元十仙	三元二十仙

是等價格の比較に由りて外國品の到底内地品と競争し得ざるを知るべし去れど其の價格の差は固より品質の良否に由るべきも重に運賃の多寡に原因するものなれば若し一旦當地に製粉所を設立し土地の原料を使用して精良品を製造することを得ば良品を廉價に供給するとを得て外國製粉の進入を杜絶することも全く望なきに非るべし、唯た該事業を經始するに當つて蒙り易き一個の障害は原料品供給の不確定なることなり、即ち當地方の春収農作には著しき豊凶の差を生じて爲めに麥の供給料と價格に非常の變動を惹起す

ることあるべければなり、前顯輸出表に就きて見るべし、思ふに當地方の氣候は概して春作物に適當ならず年の二月中旬若しくは三月初旬頃より霖雨の期に入りて三十日の久しきに涉りて天日を見ざること稀なりとせず、是れが爲め小麥大麥の成長を阻害するのみならず、開花の期に入りて猶ほ陰雨の晴れざることありと是れ年に著しき豊凶の差を生ずる所以にして若し製粉業の目的を製麵粉に限らんか時に或は不測の損害を蒙ることを免れざるべし去れど其の業務を製麵粉のみに限らず種々の原料を採つて各種の製粉を爲さば其の欠點を防ぐことを得べし、種々の原料とは即ち秋作物の中に重位を占むる菜豆(ヤエナリ)、豌豆(春作)、蓮根等にて春收の不作は秋收物を以て補ひ行かば其の業務に甚しき支障を生ずることなかるべし。

菜豆は小豆と殆んど同様に澱粉に富みたる豆類にて之を日本内地に輸入するも優に製粉の原料として小豆に代用し得るものなるは製粉業者の已に熟知せる所にて先年當地より之れか目的を以て日本に輸送されたる數量莫大なりしと云ふ、然るに當地住民は餓を食ふこと少ければ小豆、菜豆を製粉する

附 録

こと殆んど稀にして随つて小豆の如きは産額甚だ少し唯た菜豆は重に夏期煮熟して食ふ外に其の幼芽を作りて常食の菜と爲す菜豆節と云ふ今左に最近五年間に於ける輸出額を擧ぐれば

年 度	單 位	數 量	價 格
三 十 一 年	擔	四〇、一四八	七二、二六六
三 十 二 年	同	一一八、一六五	一八四、三三七
三 十 三 年	同	一〇三、一一四	一五四、六七一
三 十 四 年	同	八五、五二七	一二八、二九一
三 十 五 年	同	三〇〇、四九四	六七〇、一〇一
平 均	同	一二九、四九〇	

即ち年々平均十二萬九千餘擔の輸出ありとす、豌豆の如き其の正確なる輸出額を税關年報に徴することを得ざれど又確に菜豆に譲らざる産出あるべきなり大概白色豌豆とす。

上述する所に據り略ぼ其の原料の豊富なる所以を知ることを得たれど其の

附 録

製品の需用者は物品に由りて異り即ち小麦粉は廣く支那人一般に對する内地用と爲し菜豆類の製餡材料は之を日本に向け輸送することを得べし。元來製粉業の如きは他の紡績、織布等の如く大機械の装置と共に職工の巧妙なる手工を要するが如き事業に非ずして其の職工には支那人を使用することを得るものなれば業務難易の度より見るも已に企畫し易き製造業とす。右何れの點より見るも目下當地に於ける企業之多々ある中に製油業に次いで將來有望なる製造業なれば來つて漢口に於て何等かの事業に放資せんと欲するもの、宜敷注目すべき事柄とす、因に言ふ當地の進運に連れて各種の事業の勃興する中に過般當地の官人四五名聯合して洋式光澤出し機械を日本より輸入し市の邊隅礪口に一工場を設立せんと計畫ありと聞くや従前の踏坊職工が足にて凹字形の石片を動し布を壓して光澤を出だすもの(の職工が其業務を失ふを恐れ六百名程集合して該工場建築地に押し寄せ暴動を始めんとせしかば城兵四百名程出張して鎮撫に勉め幸に事なきを得たりと云ふ企業者の一考に資すべし。

一、硝子製造業

當地附近否な長江沿岸各地には石灰岩の山脈多く随つて珪石等の同性礦物を出すこと多し黃陂附近に珪石の産地ありと聞く而して湖南よりは多量の鉛礦を出す故に硝子製造の原料に富むこと又確に他地方に勝る之れか爲め當地に於ける二三の清國企業家は新に地を武昌に相して硝子製造業を始めんとすとの風説あり目下當地方面に於ける外來玻璃器の需用は甚た僅少に其の嗜好は幼稚なれば此處に玻璃器の製造場を起すは確に尙早の謗を免れざるべし去れど支那人の上等住家には亦た多少の板硝子を玻璃祭祠用窓食器棚店障子等に使用するが故に此等の場所に相應の需用ありと見るべし、輸入年額約十萬より十五萬兩の間に在りて呎二吋長の八吋幅物より三呎六吋長の二呎四吋物に至る種々の大さあれど大抵並物にて厚手及磨等の上等物は少し此の輸入全額は固より當地のみの需用には非ずして其の幾分は湖南陝西四川等に轉送せらる年々需用増加の一方なれば將來に於ける需用の最多額を豫知し難し。

一、タオル製造業

當地方面の住民は貴賤上下の區別なく洗臉用及び拭汗用に「タオル」を使用すること他地方に過ぎたり殊に湖南一帶には未だ他種洋貨の入り込まざるに先ち早くも「タオル」は輸入せられ拭汗用として之れに過ぎたる適當品なきより料理屋料理屋にては來客に先づ拭汗の爲め熱湯に浸して絞りたる「タオル」を出す戲場等は勿論一般都市の上下に通じて擔夫車夫に至る迄使用せざるものなきに至れり去れば湖南に於ける「タオル」の需用は亦た輸入雜貨の重要位置を占むるに至れり而して其の輸入先は日本英國等よりするものと當地漢陽にて製造するものとの二種あり今左に製造場の模様を示さん。

工場名	職工員數	一ヶ月製造高	組織	機械數
自新工藝廠	女工四十名	千百打	合資組織	三十臺
成章	女工十五名	六百打	個人	十臺
承記	未詳	未詳	個人	二臺
順昌	未詳	未詳	個人	四臺

同	康	女工十二名	未詳	個人	八臺
錦	彪	女工廿名	未詳	個人	十二臺

此等工場の製品は凡て日本品外國品に及ばず經糸十六手の緯糸二十手にて體裁よりも丈夫一方に製せられ晒し不充分なれば多少黄色を帯びたり去れど廉價にて丈夫なれば需用は日本品よりも廣し普通使用する形は左の三種とす。

一、一番長三呎寬一呎四吋にて兩端赤藍線入)

一、二番長二呎四吋寬一呎二吋兩端赤筋三本)

一、二番放長長四呎寬一呎二吋兩端藍線三本宛)

前二者は洗面に用ひ第三種は職人等が夏時汗取りの爲め褌袴代りに使用するものとす。

右は製造高も僅少にして且つ製造粗悪に價格も廉なれば品質の上に於て外來品には及ばざれど廉價の點にて賣行宜し本品は猶ほ燐寸などと同様日常必須の消費品なれば一旦好評を博して大口に注文を引受くる時は亦た大なるものとす。

る商賣なるべし因つて當地の企業家相計つて武昌に大なる「タオル」製造所を起さんと傳ふるものあり。

#### 一、燐寸製造所

當地以西一帶の内地には重に硫黄「マッチ」の需用夥多しく當市に一ヶ所湖南長沙に一ヶ所四川重慶に二ヶ所の製燐所ありて之れか供給に應ずれど猶ほ不足を告ぐるより近來日本製硫黄「マッチ」が續々輸入せられて相應の販路を發見しつゝあり目下の狀況より察するに燐寸の需用は益々其の區域を擴張し自然當地の製造所も業務を擴張して製造高を増加するに至れり長沙の製造所は一時悲運に陥り收支償はざるに至りしが故に錢票百文、二百文、三百文の三種の銅錢引替券を發行して一時の急を救ふの窮策に出でし處功を奏して頽勢を挽回し目下の處は兎に角相應の収益を見て運轉せるが如しと。

右の諸事情は全く硫黄「マッチ」の益々好望なるを證するものなれど更に近頃長沙に安全「マッチ」の輸入されんとするの傾向あり一部人士の間に已に好評を博して珍重視せらるれば今より湖南に向け安全燐寸の輸入も亦た一個の

望ある商賣なるべし、因つて思ふに二種燐寸の當地方面に更に輸入の餘地ありと見るべきが故に製品を日本より輸入すると當地に製造所を起すの利害を比較したる上に非れば確言すること能はざれど已に當地に支那人の經營する製造所ありて原料を悉く外國より取り寄せて而も猶ほ當地工場中最も大なる収益を納むるより見れば更に一個の工場築設が如何なる運命に終るや略ほ推知するに難からず

以上數種の製造業は此等製品需用の狀況より見て確に時宜に適するものと言ふべし、猶ほ此の外樹脂獸脂の豊富なるより製蠟業製蝟業の有利を説くものあり現に常市に仁太洋行なる製蝟所ありて一日四擔二十四箱の製造を爲し化粧用一個七分洗濯用一個四分位と洗濯雜用長一尺寬一寸半一本一匁七八分位にし支那人に販賣す固より廉價の粗惡品にして専ら當地方面の内地向に製造されたるものなれば勿論外來品と比較すべくもあらず且つ需用者少き爲めか製産額は僅少にて家屋の結構機具の裝置等不完全を極めしものにて工場の體裁を備へしものに非ず、原料は重に牛油を使用し職工の數十六

名光緒廿六年の創立なりと言ふ當地方面の支那人は固より上等石鹼を使用する等なければ化粧洗濯共に廉價の物品を製して恰く其の需用に投合せんことを勉むるにも拘らず其の製造の餘り面白からざるものあるは何に據るやと云ふに

一、日本及び外國より輸入さるること、

日本品は従前多少の需用ありしが如くなれど目下殆んど使用なきが如く殊に洗濯石鹼の如きは多量の水分を含める最も粗惡の廉價品にして當地の如き暑氣の甚だしき所に於ては含脂と曹達の分離を催し全く石鹼の外觀を害するに至る故に評判宜しからず當地に最も賣行宜しきは米國製茂生洋行、豐泰洋行、祥茂洋行製品等にして追々需用は増加の傾向を有す。

一、肥皂樹子を使用す。

一般農家及び地方民は猶ほ従前の通り肥皂樹子を使用す廉價なるが爲めなり。

又蠟燭は一般の必需品にして祭祀佛事に欠くべからざるものなれば需用は

多く随つて西洋蠟燭も支那固有の蠟燭と共に追々其の販路を擴張する傾向あり去れど其の額多からず且つ上海等に於ける製蠟所の有様も亦た甚だ見るべき成蹟の擧らざるものあるは製品の不廉なるが爲めにして支那固有の蠟燭と競争すること能はざるに由る故に當地住民の嗜好上進して多少流行を追ふの時機に至らざる限りは尙ほ當地に製蠟製蠟業を開くの早きに失するを言はざるべからず去れど當地の工業地たるべき要件を具備する所以を知るもの多くは相聯合して尙ほ多くの製造業を始めんとするものあり曰く染織業曰く漂布業曰く光澤出し業等枚舉に暇あらず。

以上原料の豊富なること原料の得易きこと當地の需用に應ずべき製造業の種類と當地企業家の計畫を述べたり即ち製造業に必要な二個の條件(原料と需用)を説きたれば更に工場 of 原動力として利用し得べき種類の何たるやを知るの要あり。

### 第三 動力

#### 一、石炭

當地既設の機械工場を除き支那固有の耕田製粉製油等の各種作業には重に黄牛、水牛を其の動力に使用するなれど製粉製油等に機械を使用するに至らば勢ひ其の動力を瀛力電力等に求めざるべからず此の動力利用の難易は大に工業地としての價値を左右すべきものなれば水の得易き所には水力を利用すべく石炭の得易き所には瀛力を用ふべし當地には湖南、四川の石炭潤澤にして廉價に供給せらる目下所産の炭質猶ほ日本炭に及ばざる爲め大火力を要する工場には不得止日本炭を使用すれど採掘進行するに連れ漸次良質の石炭を出すべく且つ四川への航通一層便利と爲るの曉には良質を以て有名なる龍王洞より多額の産炭あるに至るや必せり唯だ當市か長江の沿岸に位するに拘らず其の河水を動力に使用し得ざるは工業地としての一次點なるべし蓋し河床の傾斜大ならず流力随つて速ならず且つ夏冬二期に於ける水量増減の差甚だしければなり。

### 第四 職工賃銀

#### 工場種類

員

數

日又月給額

摘要

附 録

兵 工 廠

同局小銃身工	約七〇〇	月最高最低平均	機械は四百臺
同小銃彈藥莖工	八〇	月最高最低平均	藥莖は火藥を包有する眞鍮管なり
同小銃彈子工	二〇〇	月最高最低平均	
同砲身工	五〇〇	月最高最低平均	
同砲機部工	二〇〇	月最高最低平均	
同砲彈藥莖工	八〇	月最高最低平均	
同砲彈子工	一〇〇	月最高最低平均	爐子三十二臺
同鍛鐵爐工	一〇〇	月最高最低平均	爐子二十臺
同砲身鍛工	六〇	月最高最低平均	
同修機鍛工	三六	月最高最低平均	爐子二臺
同模型工	一二〇	月最高最低平均	土砂を用ひて形象を作るもの
同熔銅職工	七〇	月最高最低平均	
同雷管莖工	一〇〇	月最高最低平均	内部の藥は鋼藥廠にて詰め込む

同銃砲臺工	二〇〇	月十弗平均	
同機關部工	八〇	月十八弗平均	工場の動力機械部なり
各部見習工	五〇〇	月最高最低平均	
鐵政局熔礦爐	八〇	月最高最低平均	「プラスチック」熔礦爐なり
同修機工	二〇〇	月最高最低平均	
同瀛車修繕工	四〇	月最高最低平均	
同機關室工	四〇	月最高最低平均	
同熔鋼爐工	四〇〇	月最高最低平均	「ベスマル」熔礦爐及「レール」製造 工なり
紡紗局	一	日二十七八仙	熟否に由り差異あり
織布局	一	日三十二三仙	同前
礮寸製造所	一		前章に詳かなり
磚茶製造所	三、三〇〇	日二十仙平均	夏時釜蒸しの仕事は困難なるが故 に一日一弗に至るあり
生糸繰所	八〇〇	日二十五仙	繭の撰り分け工は五仙より十五仙 繰絲工は廿仙乃至廿五仙位
「タオル」製造所	一〇〇	日十五仙内外	



蛋 廠 女 工 四、〇〇〇 日十五仙内外  
 牛皮棧晒皮工 不 定 日二十仙平均  
 漆油皮油荷造工 不 定 日二十仙平均

人 足 賃

人 足 種 類 出 來 高 拂 一 日 給 摘

要

汽船々内人足 毎百噸 六弗

以上の賃銀にて親方が引受け其の幾分を人足に給す

庫入庫出人足 一工十文乃至廿文

一工とは百斤乃至百五十斤の一

「トランプ」土塊運搬 毎回自三十文至七十文一人に付百四十文  
人負擔料を運搬するを云ふ  
 出來高拂は一回二人分にては道程の遠近に由り不定一日給は親分か子分に支給する額

全 百三十文

道 普 請 人 足

當地には日本の如く上組下組イ組等の組合を作り持場々々を定めて營業する人足請負業に似たるものなく唯だ從來の渡船場には人足雲助の集合躰ありて一定の賃銀を定めて營業し其の持場は確立し他の繩張りを犯すを忌むこと甚だし此等は稍や日本に類すれど我が人足請負業の如く多人數を糾合して各種の方面に仕事を爲すものとは異なれり尤も會社には人足掛なるも

のありて人足請負の業を爲す各會社及工場の人足掛は隨意に市街に迂路付き居る苦力擔夫を呼び來るものなれば是等の人足掛は所謂臨時の親方にて仕事の最中は凡ての人足其の指圖に従ふものとす故に會社は一定の金額を人足掛に支給すると共に仕事の出來不出來に對する責任を之に歸するものなれば人足掛は勝手に其の範圍内にて人足への割り當て及び員數を定むるものとす而して汽船會社倉庫等日々定數の人足を要するものは年中日々の支給額を一定し寒暖節期等勞働の困難人足の拂底に基く賃銀の高下には順着せず故に暑氣永くして勞働賃銀日々高き時は請負人の損失と成る。  
 人足掛即ち苦力頭が人足を使役するには銅錢の現金を支拂ふ場合と又仕事の出來高に對して一回宛代錢籌子後に現金と引替へ得べき竹片を交付する場合とある竹片は三四寸にて表に會社又は使用者の名と庫の名とを刻す又荷物積込の證として計代數籌子を用ふること日本と同じ即ち船より庫入を爲すと庫より船積を爲すとに論なく始發終收の證と爲すものなり。  
 何處も同じことなれど擔夫賃の最も高きは夏時と正月にして殊に正月は一

般商家の閉店するが故に擔夫も休業して波止場にあらす爲めに舊正月申汽船會社の如きは非常に荷役に困しみたり是れ人足掛と人足とは日本の如く親分子分の關係なく堅き規約の下に結ばれざれば仕事を爲すも爲さざるも人足の勝手次第なればなり。

要するに熟練を要する職工は追々其の數を増加し概して男工一日二十仙女工十五仙位人足は普通仕事の出來高拂なれと平均すれば又一日一人十五仙乃至廿仙なるべし將來居留地土木工事、鐵道敷設事業並に各種製造所の設立を見るに至らは愈々職工人足の需用を増すべく又之に支拂ふべき銅錢の益々騰貴する傾向あるより各種の工賃は總して上騰すべし。

#### 第五 結 論

要之當地は之を原料支給の方面より見るも製品頒布の難易より見るも將た工場燃料の得易きより見るも此處を轉運發貨の大集散地と見るの正しきが如く又一個の工業地と看做すの強ち失當に非らざるを知るべし、元來本邦人が商賣上に於て錙珠の利を争ひ營々として其業に安するの點に於ては支那

人の敵に非らざるは言ふ迄もなきのみならず又資本の點に於ても本邦人は或は支那人に一籌を輸する憾あるを免れずと雖も今後日本人の採るべき對清事業は果して如何なる種類の者なるや、鐵道敷設が政略に權用せられ汽船航路が商權伸張一國利權の植立を意味して開始せらるゝは大に悦ぶべき現象なれど此種獨占的性質の事業は其の範圍に限あれば多くを人に望むこと能はず、然るに幸ひ日本人は科學の力と機械運用の術に長けたること支那人に過ぎたれば其聊か兄長せる工業を内地に施すのみを以て甘んぜず宜敷清國內地に移して其奏効の如何を試むるの強ち迂策に非ざるを知るべし、清國に於て日本人の商業を代表するは上海を最とすと然るに其商店中信用あり多少の取引ありて常に利純の幾分を見るものは數十軒中僅に四五家に過ぎず、天津然り牛莊然り而して最も必要なる長江流域にさへ却つて日本大商人の投資者甚だ少しと言ふに至つては對清貿易の前途も亦遠遠と言はざるべからず、畢竟内地の企業家や實業家と稱する有力の資本家にして清國內地の商事情に精通するもの稀なるが爲めに着手すべき企業の多きに拘らず空

しく機會を失して徒に拱手無爲に終るを常とし其海外に出て、何等か爲すあらんとするの徒は無資の青年か然らざれば當年單騎旅行の壯圖を再びして泡の如き虚榮を得べく夢想せる遊覽者のみ遊覽者は高き船賃と莫大の宿料とを拂つて僅に皮相の外観を見物するのみ又無資産の企業家は投機に僥倖を期するに止まり殖産興業の實際に効なし。

今や漢口は各種企業の勃興すべき機運の端を示し着實なる大資本家の放資を待てり製油業者來るべし製粉業者來るべし製燐寸業者最も可なり製石鹼業者亦た不可なし漢口の膨脹は一時も停止せず若し今の機會を失はば他の外人は徒に拱手無爲に終るものに非ず必ずや十年を出すして漢口は外人の製造町と變せん。

### 第二款 工業地としての漢口(其二)

漢口に於ける有利事業

一、硝子 二、煉瓦 三、燐寸 四、綿線工場及紡績所

漢口棉花の大産出が本邦紡績界に及ぼす影響

最近十ヶ年間に苧麻輸出并内外麻袋輸入表將來の工業勃興に付本邦人の採るべき最良處置

(三十七年三月廿四日附在漢口帝國領事館報告)

工業地としての漢口が如何なる状態に在るや又將來に起し得べき有望なる製造業の種類及び漢口は早晚外人の製造町と變すべき豫想等に就きては已に報道し置さしが爾來僅に半歳を経ざるに已に早くも煉瓦製造所の武昌に起る有製革所の建設さるゝあり又武昌官邊有志の間には原料硝砂を江西省に仰ぎ蒼鉛を湖南に採りて硝子の製造場を武昌に開設せんとの計畫今將に熟して已に一獨人を技師に雇備し又特に此程官邊の秀才を白耳義に派して硝子製造業を研究せしむるの舉あり此等工業熱の獨り官邊に昂騰せしのみならず亦た商民の間にも追々洋式機械を用ひて大規模の工業を起すの利を覺知し或は邦人と共同して新に燐寸製造業を始めんとし(支那人のみにては當地に製造業を始むるはこと能)或は「エンジン」仕掛の線綿工場を起さんとするあり或は又更に紡績所を建つるの利を説いて邦人に合資を計るあり以上の數種は油類榨取工場製粉

業と共に早晚實現し得べき有利の製造業たり、何が故に有望なるやの理由を見るに

(一)硝子 当地方面に於て需要の多き硝子器は重に板硝子「ランプ」ホヤ、油壺、硝子卸等の二三種に過ぎざれども近來石油の輸入益々増加し其の需要の範圍次第に擴大するに連れて(最近五年間の平均輸入年額一千四百四十二萬七千四百六十一ガロン)「ランプ」ホヤ、油壺の需要のみにも實に莫大の額に昇るべき見込あり然るに目下の需要に應ずるは外品の一部と他の一部は當市の製造に掛る元來此種の硝子器は輸送の途中に幾分の破損を招き易きものなれば外品の消費地に於ける價格は割合に不廉なるものなるが故に事情の恰適なるものあらば消費地に製造するを好しとす目下當市に於ける硝子「ホヤ」及び藥罐の製造は機宜に適せし業務なれど僅に個人の薄資に據りて始められ空罎及硝子器の碎片を原料として市中に蒐集するものなれば製造工場は四五ヶ所あれど其の製造高には限りて迎も多大の需要に應ずること能はず故に今回官邊の有志相謀りて硝砂を原料として大規模に製造所を始めんとの計畫に出でしなり。

(二)煉瓦 煉瓦の製造も亦必要なる製造業にして目下漢口居留地經營の新建築に巨多の煉瓦を要するのみならず一旦内地の各所に旅行せし者は土民住家の大部が單に土塊を以て積み、堅めたるを見ざるなし、是等の土廬を改築するに材木を用ひざれば必ず煉瓦を以て之に代ゆるは明なり、木材又多少の輸入頒布を見るべし、されど煉瓦の需要は更に一層廣大なる範圍に涉るべければ其製造は多々益々便することゝ爲るべし、長江沿岸の土質は細密なる粘土にして水成岩的に沈澱せし地層なれば何處を發掘するも煉瓦に適當なる土塊を得るより當地に於て大規模に製造するもの已に三ヶ所に及べり。

(三)燐寸 已に昨年頃より日本人の二三來漢して當地に燐寸製造所を起さんと計畫するものあり、彼等は皆本邦内地に其製品を頒布し盡し、南清方面に其販路を擴張し盡して更に燐寸需要新領土を發見する爲めに來漢せしものなれど最近十年間に於ける日本輸入燐寸の趨勢を見るに年々其輸入額減少し一昨年の如き之れを二十九年に比較すれば僅に二十五分の一と爲れり、是等輕便の物品年々需要増加を見るべきに却つて其輸入額の減少を來せしは何

等の原因に基くやと言ふに長江沿岸各所に硫黄燐寸工場の設立されたるもの已に當地を合して七ヶ所に及び(上海二ヶ所、長沙一ヶ所、九江一ヶ所、漢口一ヶ所)年々製造熟練して當地燧昌燐寸製造所の如きは益々業務を擴張し日々百六十箱(二百七十箱)の出来高あるに至りしが爲め優に内地需要の大部を充たし得て更に外國に其供給を仰がざるも可なるに至りしが故なり一昨年に於ける木箱軸木の輸入(日本品は前者三萬八千五百四十五擔後者七十一萬九千二百二十四擔之を三十二年)(發昌公司股)の輸入額に比すれば前者に於て約十倍(三千八百)後者に於て三十五倍(餘担)の増額を示せり是れ即ち本邦品輸入減少の原因とす(輸入軸木分は長沙等に廻上す、されど重慶長沙は重に土産の松を軸木に使用す、陝西、山西の内地には白楊に類するものありと言ふ)されど其製品は頗る粗造にて注意を拂ふて製したる本邦品に比すれば確に上品下品の差あるに拘らず年々其販路擴張するの傾向あるは一は製品輸送上に便利なる特典あり釐金税の如き公課金の免除を得たるが爲めなるべきも一は製造費、輸送費用の關係上當地(即ち消費地)に於て製造に従事するの本邦に在つて製造するに勝るものあるや明かなり、換言すれば製品の輸入よりも原料の儘にて輸入

し當地に於て製造する方遂に利益多きが如し。

燧昌燐寸公司の使用する原料は兵庫より輸入するものにて軸木は下等の赤色とす兎に角製造法の完備せるものに非ざるべきも他に競争者のなき爲め獨り暴利を壟斷して昨年の如きは純益六萬兩に及びしと言ふ、該公司是二十年間當地に支那人同業者の始業を否認すべき保證を官衙に求め得たれば支那人は當分同業に従事すること能はざれど外人は自由なれば二三の支那人は邦人と共同して日本人名義にて製造を始めんとする者あるに至りしなり。以上の製造業は固より當下の起業として有望なるべきも更に時宜に適せし起業と言ふは、エンヂン仕掛の繰棉工場と紡績所となり。

(四) 繰線工場及び紡績所 當地が四五年以前迄は上海より通州棉の供給を仰いて常に棉花の遡江を見しもの一昨年に至りて俄に十三萬擔の輸出を示し昨年に至りては約三十萬擔の大輸出を爲し得て續々棉花の上海へ向け下る者あるに至れり畢竟棉花相場の高騰は之を四五年以前に比して殆んど倍額に達したる爲め當地方面の農家は争つて棉花を作るに至りし結果なるべし。

目下の情勢より推せば將來益々多額の産出を爲して懸て通州に次ての大棉産地と爲るへき歟之れか爲め昨今兩年の如き日本棉繰機械の輸入非常にて昨年の如き約五千臺に及へりと言ふ、當地附近に於ては漢陽を大なる繰棉地と爲す實棉の集るもの大なれば此に「エンヂン」仕掛の繰棉工場と壓搾工場とを建設するの利益なるを説くものあり。

又紡績工場は棉花の産出に伴ふて當然起るべきものにして當地には已に一ヶ所の工場(官紗局)あり其成績の不良にして毎月多少の損失ありと言ふは單に管理者の不能と技術者の不熟練とに基くものにて土地と原料の不適當なる理由と爲すは唯だ空氣は年中乾燥すること多ければ棉「チル」工場及び細糸紡績には多少不便なるへきも十四手十六手位の紡績には何等の支障なかるへし、元來支那人は熟練なる手工者として各種の工藝に半は成功せしは内外人の共に認むる所なれと未だ大装置の機械工場を運轉して大規模の製造を爲すの適否を知らず當地の如き支那人の起業にして稍や成績の見るへきは僅に燮昌燐寸公司(個人資本)にて他は常に經理の困難より支持に悩むか如し、

殊に有名なる四工場中の製麻局の如き昨年中新に二三の外人を技師に僱聘せしと言ふも未だに運轉を始めず機械の修理と稱して僅に一二臺の試運轉を爲すに過ぎ如斯有様なれば紡績業の如き全く機械運用の特技を要する種類のもは當分支那人には不能にして當然日本人の着手すべきものとす今や幸に支那人間に起業熱の昂騰せし折柄なれば邦人は此際彼等の提議を逸せざる様勉めて可なり現に一日本人にして本邦の不用に屬せし機械を齎し來り清人と合資して始業せんとの計畫を爲す者あり、又前述製麻局の荒廢は誠に不思議にて當地の如き原料苧麻と大麻「ジュート」(商麻の事)の豊富にして帆布荷造用麻袋の需要多きに拘らず其製造を開始せざるは何等の理由に基くやを知らず(此程來漢せし森田)今参考の爲め最近十年間に於ける苧麻の輸出額と麻袋の輸入額とを掲げん(苧麻は壹擔十二兩乃至十六兩、大麻は四兩乃至五兩とす)

一、最近十年間苧麻輸出表

年 度	單 位	數 量	價 額
二 十 六 年	擔	一〇九、八四八	七四二、六五二

年 度	單位	外國品輸入	内國品輸入	合 計
二十七年	全 擔	一〇〇、八九四		八七七、二三五
二十八年	全 全	一二八、六八〇		七〇四、〇七三
二十九年	全 全	一二八、六八〇		九七七、九六七
三十年	全 全	一二六、五二六		九九七、一三四
三十一年	全 全	一二三、二九五		九八六、六三一
三十二年	全 全	一五一、四三一		一、〇九五、八九二
三十三年	全 全	一四三、一二一		九三八、四九八
三十四年	全 全	一五四、五二三		一、〇〇四、四〇〇
三十五年	全 全	一四〇、八五一		一、二八四、〇八八
一、最近十年間内外麻袋輸入額對照表				
二十六年	枚	一	三、三二一、二七五	三、三二一、二七五
二十七年	全	一	一、四〇〇、六四七	一、四〇〇、六四七
二十八年	全	一	七八〇、二一八	七八〇、二一八

二十九年	全	一	一六九、〇八一	一六九、〇八一
三十年	全	一	四四四、一九八	四四四、一九八
三十一年	全	一	一、〇三〇、九〇一	一、〇三〇、九〇一
三十二年	全	一	二、六五九、三七八	二、六五九、三七八
三十三年	全	一	二、四四一、二五一	二、四四一、二五一
三十四年	全	一	二、一七五、七三二	二、一七五、七三二
三十五年	全	一	三、六七〇、六八五	四、四五四、八二五

右の如く多産なる苧麻は寧波、廣東等に輸送せられて夏布(麻布にて支那の原料と爲る)に集めて越後上布などの原料に輸出せんと計畫を爲すものあり(織維強靱にて麻糸紡績に適當なると共に綿糸紡績にして年々其工場の増設せらるれば十年後の漢口は立派なる紡績並に機業地と變すべく盛に内地需要の綿糸と綿布を製出するに至らは日本綿糸の將來に及ぼす影響如何思ふに最近五年間平均の輸入年額十九萬擔(六萬餘俵)印度品二十一萬七千餘擔(七萬餘俵)は

年々多少の増加率を以て輸入されたるものなれど今後は漸次其の數量を減少すへし何となれば日本品の原料は米棉、印度棉及當地方の棉にして費用を拂つて遠方より取り寄するものなれば其の製品の價格は原料品の産地に於ける製品に比して勢高價なるべければなり(此の商工局長の一節、森田の談)近來河南内地を旅行せし人の言に據れば交通運輸不便の爲め綿糸の入り込みしもの誠に僅少にして價格の差も長江沿岸に比しては甚だしければ京漢線の完通と共に益々多額の輸入あるべし南に粵漢線其他内地へ向け鐵路の便を得るに至らば綿糸の需要は一層増加すべければ本邦品の輸入は當地に工場を増設あるに拘らず當分俄に減少するとなかるべし即ち目下は猶ほ販路擴張の新領土に富み賣込の餘地あるか故に六七年間は全般に於て増加の一方なるべきも四方に頒布し終りて輸入増加の頂上に達する曉は即ち先づ之を十年後に見るべく此際に於ける本邦紡績は支那内地に起るべき同業者に對して如何なる競争の態度に出づべきかは今より講究を要する問題なり之に對する適當なる處置は第一内地(本邦)紡績業者合同併資して一層廉價に製品を出すと然ら

ざれば第二利益の擧からざる工場の機械を當地に移して清商と共に製造を始むること是なり要之當地將來の工業勃興に對して本邦人の採るべき最良處置は未だ外人の着手せざるに先ち邦人の手に由り前述各種の製造業を始むるを要し殊に本邦に最も深き關係を有する紡績業と燐寸業は必ず邦人の占有經始すべき當下の急務に非ざるなき歟  
左に參考の爲め原料品及び各種工場製品の價格を列擧せん。

製 品 名	單 位	價 格
武 昌 綿 糸 <sup>十六</sup>	一 捆	八十二兩乃至八十四兩
武 昌 生 金 巾 <sup>四十</sup>	一 疋	四兩二匁乃至四兩六匁
硫 黃 燐 寸 (燧 昌)	七千二百箱	十二兩乃至十四兩
漢口製「ランブ」油壺	壹 個	百 五 十 文
「ランブ」ホヤ	全	三 十 文
手 織 漂 綿 布	尺	二十文内外(小賣)
原 料 品 名	單 位	價 格



附錄	花	十七兩乃至十九兩
棉	七箱	十四兩內外(到格)
燐	七萬	十五、六元(到格)
軸	千四	一兩二匁內外
燐	一箱に付	白色二弗青色一弗二十仙
硝子	一擔	八十四兩乃至九十四五兩
外國	一包	

第三款 漢口に於ける本邦商工業視察者と起業難の理由  
 附官設商品陳列場の必要

漢口方面に於ける本邦視察者の資格と其視察の方法唯見物遊覽に過ぎず

最近二十年間に於ける外人起業と日本人起業の比較  
 起業難理由の(一)商事情に不通なること(二)事業を托すべき人才に乏しきこと(三)商慣習及商業準器の難解なること

其の救済策として官設商品陳列場の學校的組織

其の性質と目的其の効果

又一方として政府の利子補給に據る民設勸工場設立

三十七年四月九日附在漢口帝國領事館報告

漢口が日増に繁昌と爲るに隨つて當地に何等かの事を始めんと希望を抱いて來漢する本邦商工業者は年々其の數を増加し昨年如き總して百名内外にも達せしならん其の員數は歐米人の視察者に比して甚だ多く頻々來遊して隈なく見物し之を手帳に上す迄に精細なる取調を爲すが故に二三工場如きは日本人の見物を謝絶するに至りし程なり此の多數の視察者中には内地の商工業界に多少の信用を有する資産家有るにも拘らず彼等の幾分が能く視察の結果を實際に施して事業を始めしやを見れば其少なきこと視察者の百が一にも足らず其精細なる取調は果して何の益する處ありしやを疑はざるを得ず。

今既往の六年間に於ける外人の起業を本邦人の其れに比すれば左の如し、

英 商 四ヶ所 内 譯 輸出入業二、小賣店一、蛋廠工場一、

附錄

米	商	六ヶ所	全	「ホテル」一、石油業一、輸出入業一、輸出入業二、機械の輸入業一、
獨	商	八ヶ所	全	輸出業三、蛋廠工場四、石油業一、
佛	商	五ヶ所	全	輸出業三、銀行業一、蛋廠工場一、
日	商	六ヶ所	全	輸出入業四、小賣店一、旅宿業一、

若し二十年來の開眼を數ふれば英、獨、佛、露、米、埃、比國の總計五十四ヶ所にして日商は八ヶ所に過ぎず(其内外人と對比し得べきものは僅に四五ヶ所)

本國との間に距離の遠隔と交通の不便とを有すること遙に日本人より甚じきに拘らず視察取調の結果は着々實際の事實に顯はるゝを見れば外人の取調は又全く邦人の視察と異なるものがあるが如し而して精細なりし邦人の視察は果して起業の繩墨憑據と爲るの價值あるや。

思ふに見る所多きが如くにして業を始むること能はざる日本人と見る所少なきが如くにして而かも着々業務を再開する外人との差別は何の理由に基くやと言ふに。

(一) 土地の事情に通曉するの熟否

視察日本人が新に本邦より來漢して普通に有り觸れたる事を物珍しく取調べて手帳に特筆大書する間に外人は是等當地の需要品に如何なる改良を施すべきやを研究す而して此等外人の多數は五年乃至二十年の長年月を長江沿岸に費せし人なり故に當地起業の多くは上海の支店か又は上海香港等に永住せし人に關係せざるはなし此の二十年間の研究を積んで始めて事情に通ずることを得るに本邦視察者の多くは起業の希望を抱いて來るにも拘らず僅に五七日の瞥見を爲して歸る故に取調の事項は精細なるに非ずして普通の事情を知らざりしがためなり素より是等の視察者に起業を待つこと難く矢張り上海及び當地に既に店舗を有して五七年の取調を積みし者に頼らざるべからず當地最近三年間に於ける日本人の起業は唯だ僅に七年以前に開業せし福島漆行か本年新に巻煙草製造業を開始せし一事あるのみ(原料は當地方面の産出なり)

(二) 人才なきこと

試に視察者に説いて有利の事業を始むべきやを尋ね或は當地の商人に説い

て湖南長沙に支店を出すべきを勸むる時は皆な異口同音に事を始むるの利を認むるも如何せん店舗を托すべき人物なしと言ふこと常なり全く彼等の言ふ如く外地に於ける商工實務の管掌者は先づ第一に其土地の言語に通ずること第二其地の商事情に明かなること第三廉直の心掛あることの三資格を備へざるべからず從來本邦資本家が他人に支店出張所等を托するに當つて先づ不安の念を抱くは不正不廉の所爲即ち俗に所謂「インチキ」の此等出張員間に起ることなき哉否やに在り内地及び外地に於ける商人が其の商賣を擴張するに當つて支店制度を採用するを忌むは重に此の理由に因す。

故に當地吉田洋行の如きは先づ薄給に甘んずる者を探つて上海店舗に三五年の修業を爲さしめ言語も熟達し而して忠實に働く見込の者に限り當地支店に上すと言ふ即ち一個商人が外地に業務を擴張せんとするに當つて先づ自ら人才の養成より始めざるべからずとせば餘りに餘計の負擔に非ざるなき歟されど此の方法に據らざれば満足なる人才を得ること難きが故に外人も大抵此の方法に據れるが如し随つて新起業は既に外地に營業せる二三の

僅少なる資本家のみの計畫すべきことに局限せらるゝに至るは惜むべきこととす其以外に強いて前述資格を具備する人才を求むれば本邦及外地に於ける幾多の支那語學校卒業生に採らざるべからずされど來つて満足に商工實務を執る迄には猶ほ三五年の實地修業を要するや必せり如何にすれば對清起業家の指導者たるべき人才を求め得べき乎官設商品陳列場の學校的組織を始むるより良きはなし。

今左に官設商品陳列場を説くに先ち猶ほ更に起業難の一事由を記するの要あり。

### (三) 商慣習并に一般商用準器の難解なること

清國貨幣度量衡等一般商用準器の統一は改訂條約の要求せる條件なれば早晩其實行を見るべきも此の紛雜なる準器を使用し慣れたる風習は五七年の短期に一洗し去ること難きが如し此の銀平に「兌」と「扣」の稱あること併に各種の商業大抵各別種の銀平及び秤を使用するは金錢及び計量物の計算を殊更に難解にするためにして瞞着手段を行ふべき一秘訣なればなり(外國洋行の取

引用の銀平は洋列紋にして秤は司碼秤なり司碼は封度秤と其分量を同ふするものに百六十斤を以て一斤とすされと洋行の買辦は矢張り支那固有の秤に由り買入を爲す又直接支那人と取引を爲せるもの多し) 此準器の錯綜は取引に最も多くの困難を興ふるものにて或る商店の如きは開店後一年間此種の瞞着を發見すること能はざりきと言ふ是等の智識に特殊の研究を要する所以も亦た起業難の一因たるべし總するに以上の三理由は邦人起業難の重なる原因にして之が救済の最良方法は官立商品陳列場の設置なり。

#### 官立商品陳列場

##### 第一、其の性質

一、本邦の工藝品のみを陳列すること(参考として當地の内外品見本を陳列するは不可なし)  
 一、陳列場内各部の委員は第一、本邦商店の番當商館の手代等實地商賣の經驗あるもの第二、普通商業學校卒業生か支那語學校卒業生第三、實業練習生を收容して之に充つること。

一、商品に就き支那人より注文を受くる時は所管官府を通じて本邦商人との間に其の製造發送の申込等の商取引其他一切の商行爲を始むべき權能を各

委員に附與すること(實修のため)

一、所在領事館をして管理せしむること

領事館か陳列場仕事の模様を管理するは其地に於ける利益の認識に非常の便利を興ふるか故なり殊に本邦製品需要の有様嗜好の如何等を詳細に且つ迅速に知るの便あり。

一、陳列場員をして強要的に夜學に支那語の日課を受けしむること、又場員に其地の支那人を加へて自然に語學研究の方便を採らしむること。

一、陳列場經費は商賣の所得を以て之に充て場員の給料は實業練習生に準ず。一、場員の實修年限を三年とし希望に因り繼續することを得。

陳列場を官設と爲すの一利一害なきに非ざれど直接金錢上の利益を擧げ得べきものに非ずして要は人才養成と商工界に於ける利益認知の好方便たるか故に暫く官設と爲さざるべからず。

##### 第二、其目的

一、支那語と商事情に精通する人才を養成すること。

單に支那起業の案内者たるべき人才を養成する點より見れば商品陳列場と言はんよりも商品陳列學校と言ふの適當なるが如し。

二其地に於ける本邦工藝品に關して製造の適否嗜好の變遷等を仔細に取調ぶべき好方便と爲ること。

若し夫れ單純の商品陳列場ならば第二目的の遂行のみを以て足れりとすれど更に之に起業家の最も渴望する青年人才養成の目的を配したるは一舉に二様の成果を納むる所以にして取りも直さず起業難の第一第二理由を救済し得たる方法とも見るべき歟此の陳列場員は將來起業家の手足と爲り或は自ら起業家と爲るべきものなるか故に重に人選を對清貿易の宿望ある商人の手代番當に採るを上策とす。

思ふに本邦實業家中には對清貿易の宿望を有する者決して尠からざるべし而して彼等は先づ起業の第一着として將來事を托すべき青年を派して事務の實修を爲さしむるに非ずや土倉氏森村市左衛門氏の如しされど是等の事業家は猶ほ常に商工實修の好方便なきを憾めるや必せり故に若し一旦陳列

學校の如き設備の整ふに至らば彼等は争ふて其門下を派して將來起業の基礎を植ゆるに吝ならざるべきなり。

### 第三、其効果

更に該事業の効益とも見るべき大利益は商品の改良嗜好の變遷等に付き消費地と製造地との間に直接且つ迅速の注文往復を重ねることを得て常に意匠嶄新なる商品の供給を爲すとを得るに至る此利益は非常なるものにして獨英佛等が本邦に比して一層地理上の不便を有するにも拘らず常に時好に適恰する商品を送來するは全く消費地の賣込人と本國製造家との間に直接の取引關係を有するに由る然に本邦製造人と當地賣込商との間には幾多の支那人仲買介在して其仲買が専ら製品價格の低落をのみ注文するか故に本邦製品は勢益々其品質を粗悪ならしむるに至り遂に長江沿岸一般に東洋雜貨の聲價を落すに至りしものなり彼の遠き流行の紫縞反物漆器等か其品質を落すに至りしは全く之れかためなり此の弊害無からしめんとせば消費地の至る處に邦人の賣込人有りて意匠嗜好に關する直接注文を爲し之を管理

する領事館をして廣く世界に正確なる報道を發表せしむるより宜きはなし  
前述目的二者何れより論ずるも本邦工藝品の販路擴張と邦人の外地起業の  
二成果を一舉に起さんとするの最良方便は官立商品陳列場の學校的組織に  
俟つに如くものはなかるべし、其の性質の内容に至つては更に適當なるもの  
あらん前述の陳列場の性質は唯だ其概略を記せしに過ぎず。

若し陳列場を官立と爲すこと不便なるものあらば大體の組織を定めて其の  
設立と營業とを篤志の實業家に請負はしめ政府は唯だ其出資額に對し年四  
五分の利子補給を爲すの方法を採らば好んで此種の事業に投費する者之れ  
あるべし。

第四款 漢口に於ける最近の膨脹と之に對する將來の施設

租界の經營

各種工場の新設

漢口最近十年間の貿易趨向

本邦人營業の種類

漢口將來の趨勢に對する本邦人の施設

(三十八年八月一日附在漢口帝國領事館報告)

漢口が京漢鐵道の開通と湖南航路の運便とに依り出入貨物の轉輾を繁にし  
昨年 に於ける貿易額は清國各港中の第二位即ち上海に次ぐに至りしのみな  
らず内外の紳商及官邊の企業家相資して硝子製造製粉會社等各種の製造工  
業を經始せんとし工業地としての漢口に一層の價值を添へんとするの氣運  
に向ひたれば未だ人の着手せざるに當つて先づ邦人の試むべき有利の事業  
ありとの注意は屢に工業地としての漢口と題して報道し置きし處なるが、日  
露戰爭は却つて貿易地として將た工業地としての漢口に至幸の影響を與へ  
其開進と膨脹とを意外に速に催進せし結果を呈し近く此の一年間の出來事  
を提起特筆すれば來漢外商の著しく増加せしこと新店舗の開業頻々たるこ  
と製造工場の豫期の如く各處に新設されしこと其他各方面に新施設の續々  
勃興せんとするあり斯くて豫期せし漢口の膨脹は必ずや近く四五年の間に  
實顯するに至らん今左に開戦後の施設に掛る各種の事業を掲げん。

## (一) 租界の經營

- 一、後華樓街(英國擴張居留地に接する部分)の再開。
- 一、英國擴張居留地の埋立。
- 一、露西亞租界の主要道路修築並に倉庫會社及官衙の新築。
- 一、白耳義租界の護岸工事竣成及び埋立。

## (二) 製造工場の新設

- 一、玻璃廠(硝子製造所)在武昌金沙市。  
固定資本二十萬兩、機械は一切獨逸より購入、技師として獨逸人一名、板硝子、鏡面、孟子、皿等を製造す。
- 二、煉瓦製造所。  
玉帶門停車場の上流にて漢陽火藥製造所の對岸にあり、佛人と支那人との合辦なりと又火藥製造所には二ヶ所の煉瓦製造所、附屬し數十個の竈を据へて盛に赤色煉瓦を製造す。元と當地附近の長江沿岸は到る所に強粘土を出し直に燒きて煉瓦と爲し得るが故に武昌に官辦壹ヶ所、漢口沙

口附近に外人の所有一ヶ所、漢陽に三ヶ所、合計六ヶ所の大製造所あり、殊に漢陽火藥局附近の丘地は一般に良質の粘土にて煉瓦の原料に最も可なり、されば上流各處に猶ほ二三の製造所を建設せんとする計畫あり、普通の建築用赤色煉瓦壹千個に付八千五百文乃至九千文とす。

## 三、和豐機器麵粉有限公司。

漢口礪口の上流約十清里(大智門停車場より二十五清里)の羅家店の漢水河岸に建設せられ、本年四月四層樓の工場一棟、倉庫壹棟、原料倉と製品倉とに分る、及び住宅壹軒の製麵粉工場にて一英人と安徽省商人との合辦に係る資本(流動固定共)額七萬五千兩の合資組織にして土地と建物とに壹萬五千兩、機械の代價に三萬餘兩(英國製にて舊式)を費したりと、晝夜二十四時間の製造高五百袋、晝袋は五十磅にて三種の等別あり、壹等品は品質佳良にして米利堅粉に比して一層純白なり、市場に行銷宜し、一等品二弗三十仙、二等品二弗二十仙、原料小麥は時價百二十五斤に付二兩二匁半にて品質本邦小麥と大同小異なれど砂利、粉土、塵埃等を混すること、晝割

二分に及び甚だしきは故意に拇指大の石塊を混ざることあり是等は凡て漢口市場より購入するものにて壹ヶ所の釐金を支拂ふ又小麥運送船は噸税を支拂ふことを要すとのことなりしが税關に交渉せし結果華昌洋行の駁船(カーゴ、ボート)にて運搬すれば無税にて差支なきこと、爲れり而して製品も又漢口市場に送る時は釐金を要せしが税關へ交渉の結果支拂ざるも可なるに至れり。

又其上流隣地に更に支那人の製粉會社の設立されんとするあり矢張り英國の機械を購入し、一日八百袋を製造するものなりと未だ工場建築を見ず。

#### 四、日信洋行綿棉工場

#### 五、電燈電力株式會社

英國人の計畫にて、エレクトリック、ライト、エンド、パワー、コンパニーと稱す拾三萬兩の資本にて壹株五十兩二千六百株の株式組織なり何國人にても株主と爲ることを得、工場は英國租界の中央にして目下機械の据付

準備中、各國租界並に支那市街に敷設する計畫なれば豫め各租界に對する許可を得ざるべからず、然るに獨り獨逸は該社の請求に關して確たる返答を與へず北京公使に上申して其指揮を俟つを要すとせり。

右の外紳商及び湖北官場中に於て計畫中に屬する製造所の種類左の如し。

一、羅紗製織場 一、セメント製造所 一、製紙場 一、製革場。

右四工場は此程張之洞が其資本を二百餘萬兩と定め官商合辦の法を以て開設せんとす。

一、羅紗製造場 は武昌武勝門外營坊口にて敷地は已に官にて購入済、土地建物機械等の固定資本約五十萬兩、流動資本約三十萬兩。

一、製紙場 は敷地未定、固定流動資本合計五十萬兩。

一、セメント工場 は地を大冶の石灰窯に卜して大規模の工場を起さんとするに在り世人も知る如く此地は泥炭、石灰、石膏及石炭に富むが故に益々多からんとする漢口武昌の建築土工に資するの目的を以て此處に此の有用の材料を製造せんとするに至りしものなり此の資本固定流動合計二十萬兩。



附 録

一、製革場 は武昌保安門外天平架に在り工場機械已に設備済此の運轉資金五十萬兩。

其の他外商の間に或は燐寸の製造場を興して燧昌公司壘斷の利を分取せんとするあり或は更に紡績工場を起こして當地多産の棉花を利用せんとするあり或は油搾取工場を起こして上等油糟を本邦に送らんとの計畫を有するものあり或は船渠會社を起して年々増加する船舶の修繕に應ぜんとの希望を抱くものあり或は又幾萬隻を以て數ふべき民船の製造修理工場を大仕掛に起さんとの考案を抱くあり是等は必ず早晚事實に顯出すべき種類の製造業にして當地か交通機關の燒點として轉運發貨の大貿易市場なるは勿論各種農産物各種織物用纖維其他獸毛皮等の製造原料に豊なると燃料に富むとの一點より見るも其工業地としての發達に申分なき場所にして此方面に漢口の發達は將來實に豫想外に速にして又大なるものあるや多言を用ひず今迄の實例に徴して清國人は株式の組織に據る大會社の經理法を覺らず且つ紡績等の機械運轉業に全く失敗したるに見るも自ら大規模の製造工場を経

理するの能力なしと斷言するものあるが如しされど此生業に熱心にして勉強なる實業國民は何時か健全なる外洋思想を移して歐式の實業社會を形成せずんば止まざるべし紡績運轉の如き必ずしも遠き將來を俟たずして總て自家藥籠中のものと爲すべきなり。  
更に當地貿易の發達を數字の上に示せば左の如し。

最近十年間に於ける漢口貿易の趨向

一、外國貿易と全貿易額

年 度	外國品貿易總輸入額	總 貿 易 年 額
二 十 八 年	一九、一五四、七六四	六一、七九〇、三三四
二 十 九 年	二〇、二四二、七三九	六一、五六九、五五三
三 十 年	二二、七六八、六二〇	六九、三五七、七九一
三 十 一 年	二二、一九一、三三五	七〇、七九二、一二八
三 十 二 年	二九、七九七、七五七	九〇、八七九、〇三二
三 十 三 年	二七、二一五、七九四	七八、四九〇、四二二

附 録

三十 四年 年 三六、〇四五、八六〇 八六、九八七、九二五  
 三十 五年 年 三七、七〇〇、六二一 一〇〇、三二一、八二三  
 三十 六年 年 五五、〇四五、五二五 一三三、二四九、八二九  
 三十 七年 年 五三、五九一、二〇五 一四七、九〇四、六五八

貿易漸進の十年間に於て外國品輸入額の増加は約二倍半に達し全貿易額は即ち一倍半の増進を示せり更に當地が内外各地に供給する土貨の集散額を十年間に徴せんに。

年 度	輸 入 年 額	輸 出 年 額	合 計 貿 易 額
二十 八年	一七、三〇六、六六八	三六、六一一、三二二	五三、九一七、九八〇
二十 九年	一七、八七七、二六九	三三、六六三、四〇三	五一、五四〇、六七二
三十 年	二二、〇〇八、七八九	三八、五八一、二七〇	六〇、六三〇、〇五九
三十 一年	一八、六四七、一五二	四二、八〇二、七三〇	六一、四四九、八八二
三十 二年	二三、六一七、八八〇	五三、〇〇九、四三六	七六、六二七、三一六
三十 三年	一九、一六七、六六七	四六、〇七四、三三六	六五、二四一、九九三

三十四 年 二二、五六九、四二三 四三、七八〇、九六三 六五、三五〇、三八六  
 三十五 年 二二、三九四、九〇三 五六、九〇七、九三〇 七八、三〇二、八三三  
 三十六 年 二二、三九七、八二七 七一、五一〇、七四五 九三、九〇八、五七二  
 三十七 年 三一、二二八、四〇三 八七、〇九九、五二二 一一八、三二七、九一五

輸出年額は即ち當港よりの輸出及び再輸出の二者にして重なるものを米穀、牛皮、羊皮、油類、桐油、香油、茶油等、紅茶、樹脂、棉花等とす、近年其供給力の増進するを見るべし、是等土産貨物中本邦に關係深き牛皮、棉花、大豆、苧麻等の未製品は悉く世界の市場に評價して二三等の品位を有するに過ぎず、是等の天産物は土地と氣候の自然影響を蒙ること大なれど種子と耕作法の改良に由りて懸かて其品質の改善を見るに至らん(因に百三十四年以前に外人當地の農務學堂に米棉を試植せしか其結果の如何を見すして止め)

(三) 本邦人の營業

漢口に於ける日本人の商業は誠に近き二三年以來の發達にして已に四十年以前に其永住の根據地を定めし英人に比すれば恰も主客の觀を呈し設定せ

附 録

し租界の經營にも未だ着手せざれば我が商人は目下支那街と他の租界に散在して他人の店頭に寄寓するに似たりされど此の新來の商人は其店舗の數と人員とに於て此の短時間に實に急激の増進を爲したるのみならず利權培植の先驅として貿易通商の第一要義として凡ての設備の最先に来るべき交通機關(商船會社と湖)の完全なる施設は一躍して幾多の先進國の伍伴に列せしものと言ふを得べし。

今左に航河汽船の噸數を各國別に示さん。

國 別	隻 數	噸 數	國 別	隻 數	噸 數
支 那	六隻	七、〇四二	獨 逸	六隻	六、七四四
英 國	十四隻	一九、五五八	日 本	八隻	約一〇、〇〇〇

右は唯だ航河汽船の比較にして英國二大會社(怡和、太古)と招商局は増水期に於て廣東香港等に對して航洋汽船の航路を開くを常とすると直接本邦漢口間に直航々路を開くに至りしは近く大阪商船會社を以て嚆矢とす其初め當地棉花と雜穀類の本邦へ輸出の數量及當地方面に輸入せらるゝ本邦綿糸の

數量増大するか爲め共に是等の貨物輸送を目的と爲し神戸漢口間の直航路を開くに至り去る五月三十一日を以て第一回の着漢ありしか頗る好望にして積荷多く其幾分は次回廻しと爲るが如き景況なりし當地よりの積送品は重に大豆、豆糟、棉花、牛皮等にして運賃の従前の航路に比して低廉なると上海に於ける積替の手續を省くを得るか故に荷主の受くる便利は尠少ならず目下雇備船を用ひて一航半月の定期とす二千噸を越へざる汽船なり。

直航々路運賃表

品 名	單位	漢口發大阪 漢口至神戶		品 名	單位	漢口發大阪 漢口至神戶	
		兩錢分	兩錢分			兩錢分	兩錢分
明 礬	全	二六	二九	大 豆	全	二七	二九
「アンチモニー」	全	全	全	花 擔	全	八五	八七
壓 榨 棉 花	噸	四、〇〇	一	漆 全	全	九〇	三九
糟 類 擔	二七	二九	桐 油 全	全	七三	七六	
牛 皮 全	六二	六五	獸 脂 全	全	五六	五八	
壓 榨 苧 麻 全	六四	六七	石	全	二四	二七	

附 録

歴 榨 商 麻 全 六二 六五一棉 實 子 全 二五 二七

本航路の開始は本邦對漢口の貿易に一新紀元を開くものにて當地の原料と本邦の製品とが一層廉價に且つ一層速に相互の市場に供給せらるゝものなれば我が貿易界は其關係の密接せし點に於て更に一個の大市場を得たるものと言ふを得べし、是れ全く湖南航路の開始と共に當地漢口の膨脹に伴ふ機宜の施設にして河南に對する京漢鐵道の運輸が猶ほ一層簡便なるものに至れば雜穀牛皮等輸出の點に於て該航路と接續に更に多くの便益を與ふること恰も湖南に對する汽船航路の如くなるべし。

以上の如く漢口の膨脹に伴ふ交通機關の施設は本邦商人の手に依り遺憾なき進歩を見るを得たると共に其の之を利用すべき貿易商人と賣込商との有様は最近壹年間に非常なる發達を示したり、開戦後に於ける開店舖の種類左の如し。

日 信 洋 行	名 稱	營 業 の 種 類	場 所
	棉花、雜穀の輸出、綿糸の輸入		漢口市河街

東 興 洋 行	全 前	花樓街一碼頭
大 倉 公 司	牛皮、鐵礦の輸出、軍器の輸入	英租界第三碼頭
華 和 洋 行	日本雜貨の小賣卸賣	花樓街一碼頭
鴨 川 洋 行	全 前	全 前
八 千 洋 行	寫真器械時計其他雜貨	全 前
大 石 商 店	日本雜貨小賣	大 智 門 外
大 谷 公 司	石炭賣込	漢 口 河 街
作 山 器 械 廠 分 行	機械類賣込	獨逸租界華景街
旭 洋 行	煙草及藥酒小賣	
奧 村 商 店	日本菓子製造販賣	華 景 街
寫 真 業		華 景 街
鑿 井 業		花 樓 街
和 記 洋 行	委託販賣業	大 智 門
支 那 市 街		支 那 市 街
五 軒		五 軒
旅 店 及 料 理 店		

靴製造修理業

大智門外

之に其の開戦以前に成立されし種類を加ふれば總計約四十軒にして舊店舗の名稱と業務の種類左の如し。

店名	營業の種類	場所
大阪商船會社	上海より宜昌に至る河航及神戸より漢口に直航	漢口馬王廟
湖南汽船會社	漢口より湖南の長沙湘潭に至る	全前
三菱公司	大冶鐵礦の積送、石炭銅塊の輸入	佛租界
三井洋行	棉花、麻、雜穀等の輸出、銅塊綿糸布石炭、枕木等の輸入	英租界一碼頭
吉田洋行	棉實子、雜穀類の輸出、皮棍、小雜貨類の輸入	漢口河街
中桐洋行	棉花雜穀類の輸出、綿織機械同附屬品の輸入、生漆の輸出及卷煙草の製造	全前
東益洋行	牛皮水牛皮の製造	漢口市街
新興造皮廠		全前
田中洋行	日本雜貨小賣	大智門外
欽記洋行	雜貨の輸出入	漢口市街

店名	營業の種類	場所
日華藥館	賣藥店	全前
快安洋行	雜業	華景街
東福洋行	全上	漢口市街
料理店		大智門外

是等店舗と製造所の營業取扱高年額(輸出入高及)總計壹千萬兩を下らざるべし。

是等の扱高が益々増加するのみならず此氣運に伴ふて其他猶ほ益々各種の新事業が本邦人の間に計畫されつゝあり其主なるものを擧ぐれば左の如し。

- 一、印刷出版業
- 一、精米會社 (當地に未だ一軒もなし兩湖の玄米を把つて大仕掛に精白するもの)
- 一、商品陳列場の設立
- 一、ジャンク民船の製造修繕場
- 一、船渠會社
- 一、マツチ製造場の設立

以上の計畫は早晚實現すべき種類の事業にして時機を失すれば必ずや他人の染指すべき有利の業務とす本邦人が最近の來漢者として各方面に利益の收得を計るが如く自他の外人も相競ふて營々として新生面の業務を始むるに熱中するより自然多くの人材を要し本邦人が急激の増加を爲せし如く各外人の増加も亦た著しきものあるを見る最近の調査を示さん。

英國人	四三二	露國	九二
米國人	三八五	白耳義人	八七
佛國人	六〇	本邦人	四五〇
獨逸人	一二七	其他	一九二

本年前半期に於ける本邦人の増加は約八十名にして領事館に登録せざる分を合算すれば百名を越し昨年末の報告に加算すれば五百餘名と爲り居留外人中の第一位を占むるに至る。

本邦人の當地方面に如斯急激の發達を遂げたる原因は此漢口が港灣の大交通機關の燒點等地理上貿易に便利なるものあるに據るは勿論なるも最近二

間に當地が米棉の影響より棉花の大市場と爲りたること及時局の影響に依り北清貿易の杜絶せし爲め大豆牛皮豆糟類の本邦に對する積送高未曾有の大數に昇り取りも直さず漢口貨物の眞價が此年本邦各部に知れ渡りし結果當地と本邦との貿易關係を密ならしめしに據るものとす。

(四) 漢口の將來に於ける趨勢と本邦人の之に對する施設

本邦商人は之の膨脹的趨勢に對して將來如何なる方策を採るべき歟曩にも述べし如く本邦品の當地に賣れ行く模様を見るに其の大部分の銅塊、石炭、枕木等の粗製品にして工藝品とも見るべき製品の賣込み甚だ少く遠き歐米の綿製品及小雜貨類が評判宜しく需用さるゝに反して何等本邦の工藝を代表する貨物の大口輸入を見ざるは實に貿易の本旨に違ふものなれば何等かの方法を用ひて我が工藝品の賣込を計ること是れ其の一なり如何なる方法を採れば最も簡易に確實に我が製品の賣込を爲し得るや要は當地の日用品に對する嗜好と風俗の微細なる研究に始めさるべからず而も其の研究を實地の取引及實修の上より得んとするの最捷徑は唯た大規模なる商品陳列所の

施設に如くものなけん、而して之に幾多の青年を收容し、實地研究の便利を興ふる外言語を習得せしめ、真正對清貿易に堪ゆるものを養成する方法を採ること、是れ漢口の膨脹に伴ふ最要急務にして、斯かる便宜の土地に青年の簡便にして大規模なる實務實修機關を設けざるは、我か實業家の迂遠を表白するものなり、幸にして養成されたる是等の青年は、即ち企業家の手足として、事務執掌の任に當るものなれば、本邦有爲の各資本家は、各自に其の店員の一人を漢口に派して、實修の途に就かしむべきなり、又大なる資本家は、此際相協力して、漢口企業組合なるものを組織し、其利益の有望なるものを撰んで、種類の何たるを問はず、着々實行に取り掛るの方法を採るべし、聞く所に據れば、清韓企業組合なるもの、如き幾多の合資組合設立されたる如きも、未だ此の重要地點に對して何等の目立ちたる運動を執りたるを聞かず、實に惜むべきことなりとす。

要は是等の企業家と其手足たるべき青年適材と相藉るに非ざれば、能はず彼の遠き歐米の外人か當地に自家製品を賣込むに就て、其需用の途に關する支

那人の人情風俗の微細に涉りて調査の遺漏なきは如何なる原因に據るやと言ふに多くは數十年の長日月研究せる人々の盡力に與るもの甚だ多きものあるを知らざるべからず、本邦人は往來に最も便利なる位置に在りて、居留人の數も他の外人に劣ることなし、而も猶ほ我か製品に關する嗜好風俗等の調査に就ては實に及はざること甚だ遠しと言はざるべからず。何れの點より見るも確實なる漢口企業組合の起るありて、第一着に其の工藝品の賣込と青年適材の養成とを兼ねたる施設を實行すること、實に今日の急務なるを信するなり。

## (六) 在清國帝國領事館管轄區域

奉天帝國總領事館管轄區域

黑龍省吉林省、盛京省中牛莊、安東兩領事館管轄區域に屬せざる部

清國吉林帝國領事館管轄區域

吉林省中奉天並に哈爾濱帝國總領事館の管轄に屬せざる地方

清國哈爾濱帝國總領事館管轄區域

伯都訥廳、五常廳、寧古塔及其以北の吉林省、嫩江以東の盛京省、黑龍江省

安東帝國領事館管轄區域

盛京省中安東縣、岫巖州、寬甸縣、通化縣、懷仁縣、臨江縣、輯安縣

牛莊帝國領事館管轄區域

盛京省中復州、營口廳、蓋平縣、海城縣、錦州府

天津帝國總領事館管轄區域

直隸省、山西省

芝罘帝國領事館管轄區域

山東省

上海帝國總領事館管轄區域

江蘇省中松江府、太倉州、通州、鎮江府、淮安府、徐州府、海州、揚州府、江寧府

安徽省

蘇州帝國領事館管轄區域

江蘇省中蘇州府、常州府

杭州帝國領事館管轄區域

浙江省中杭州府、嘉興府、湖州府、金華府、衢州府、嚴州府

漢口帝國領事館管轄區域

湖北省中漢陽府、武昌府、德安府、黃州府

河南省中彰德府、衛輝府、開封府、陳州府、許州、歸德府、南陽府、汝寧府、光州

江西省中九江府、南昌府、饒州府、廣信府、南康府、建昌府、撫州府、臨江府、瑞州府

長沙帝國領事館管轄區域

湖南省

江西省中袁州府

沙市帝國領事館管轄區域

湖北省中荊州府、荊門府、襄陽府、安陸府、施南府、宜昌府、鄖陽府



附錄

河南省中懷慶府河南府陝州汝州

重慶帝國領事館管轄區域

四川省陝西省甘肅省貴州省雲南省

福州帝國領事館管轄區域

福建省中福州府延平府建寧府邵武府福寧府

廈門帝國領事館管轄區域

福建省中興化府泉州府永春府汀州府漳州龍巖州

廣東省中潮州府嘉應州惠州府

江西省中吉安府南安府贛州府寧都州

英領香港帝國領事館管轄區域

香港政廳管轄地

兼轄 澳門政廳管轄地

兼轄 廣東省中廣州府南雄州韶州府連州肇慶府羅定州高州府雷州府廉州

府海南島

廣西省

(七) 清國各地駐在帝國領事 (明治四十年七月調)

安東	領事	岡部 三郎	上海	總領事	永瀧 久吉
牛莊	領事	窪田 文三	南京分館主任副領事	船津辰一郎	
奉天	總領事	萩原 守一	蘇州領事館事務代理外務書記生	大賀 龜吉	
遼陽出張所主任副領事		速水 一孔	杭州	領事	高洲 太助
鐵嶺分館主任副領事		天野恭太郎	漢口	領事	水野 幸吉
新民府分館主任副領事		新國千代橘	長沙領事館事務代理外務書記生	宮村 季雄	
長春分館主任領事官補		柴田要治郎	沙市領事館事務代理外務書記生	本部 岩彦	
吉林	領事	島川毅三郎	重慶領事館事務代理外務書記生	池永 林一	
哈爾濱	總領事	川上 俊彦	福州	領事	高橋橋太郎
天津	總領事	加藤本四郎	廈門	領事	瀨川淺之進
芝罘	領事	小幡 酉吉	汕頭分館主任外務書記生	藤井 元一	

附錄

# 漢口附錄

全 明治四十年八月十九日印刷  
年八月廿二日發行

漢口與付  
定價金貳圓貳拾錢



著者 水野幸

發行者 東京市神田區表神保町九番地  
合資富山房

全所社長

代表者 坂本嘉治馬

印刷者 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地  
佐久間衡治

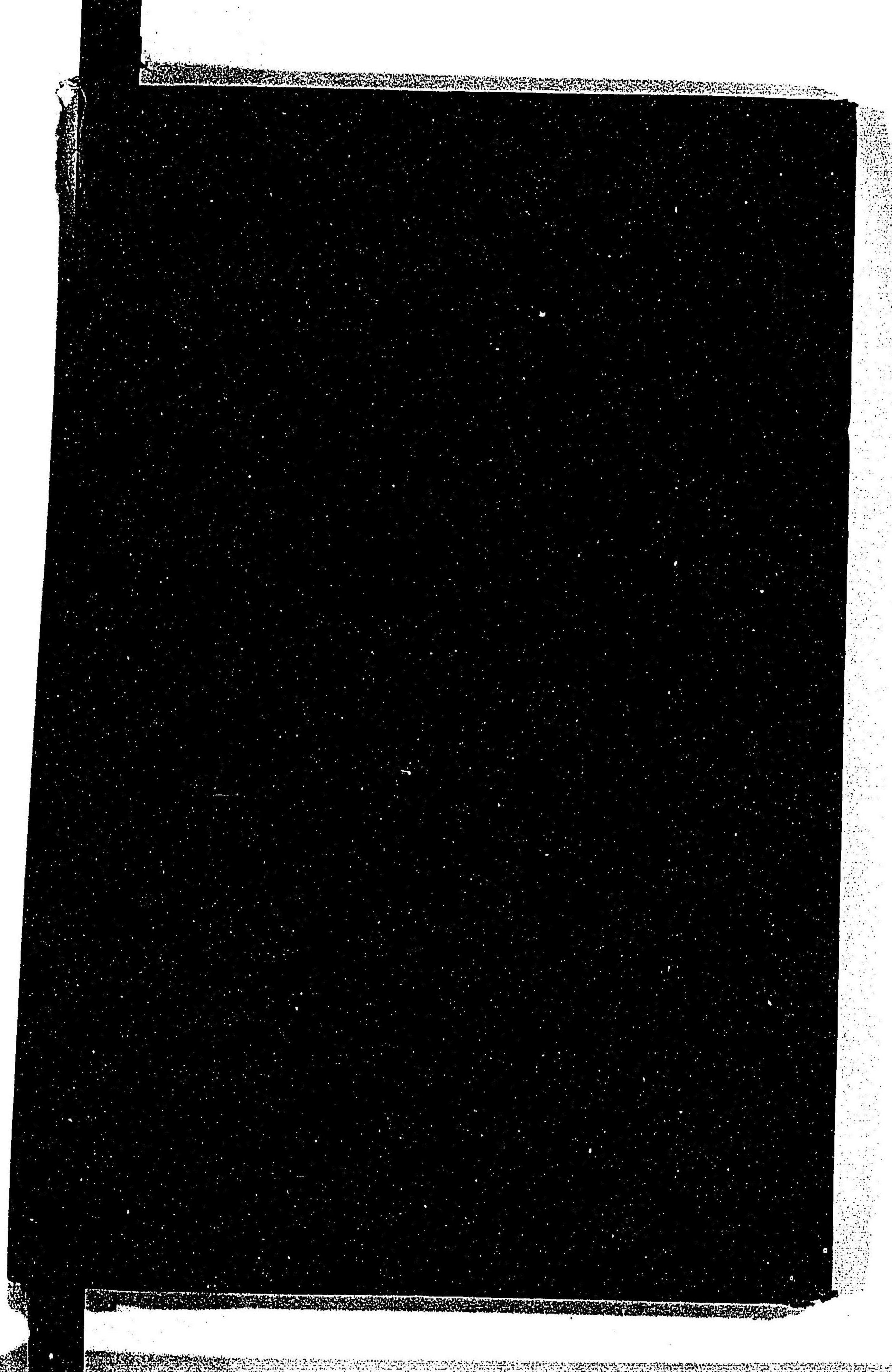
印刷所 東京市京橋區西紺屋町廿六七番地  
株式會社 秀英舍





CL B6#-2

NO. 581



026485-000-9

292.225-M722k

漢口 —中央支那事情—

水野 幸吉/著

M40

ADD-0145

